

# 第1回

## 立川市長期総合計画審議会

令和5年10月16日

立川市総合政策部企画政策課

## 第1回立川市長期総合計画審議会会議録

開催日時 令和5年10月16日（月曜日） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所 立川市役所 210会議室

出席者 [委員] 朝日ちさと（会長）、松浦司（副会長）、芦澤清八、川口哲生、甲野毅、小林優貴、篠原俊博、田所佳洋、長井琢英、西内絵梨子、平澤豊、福永毅、萬田和正、宮本直樹、森林育代、大塚正也（敬称略）

[事務局] 渡貫泰央（企画政策課長）、矢島和晴（企画政策課連携推進係長）、齋藤安則（企画政策課基地対策係長）、夏目互（企画政策課主査）、中野利佳（企画政策課）

## 1 辞令伝達

(渡貫企画政策課長)

皆さん、こんばんは。このたびは、御多用中にもかかわらず、審議会委員をお引き受けくださりまして、また、御予定等を御調整いただきまして、誠にありがとうございます。改めまして、御礼を申し上げます。

現在、本市の行政運営の基本としております立川市第4次基本構想の策定以来、8年を経過し、令和6年度末をもって終了いたします。本市では、改定に向けて準備を進めてございまして、皆様の貴重な御意見を賜り、新たな構想を策定することとしているところでございます。

私は、本日、座長が選出されるまでの間、司会進行を務めさせていただきます総合政策部企画政策課長の渡貫と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、初めに、立川市長から、辞令伝達を行います。

委員の皆様には、市長が座席の前に参りますので、自席にて御起立をお願いいたします。

それでは、芦澤清八様。

(酒井市長)

芦澤清八様。立川市長期総合計画審議会委員を任命する。令和5年10月16日。立川市長、酒井大史。よろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

川口哲生様。

(酒井市長)

川口哲生様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

小林優貴様。

(酒井市長)

小林優貴様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

田所佳洋様。

(酒井市長)

田所佳洋様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

平澤豊様。

(酒井市長)

平澤豊様。以下同文でございます。よろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

福永毅様。

(酒井市長)

福永毅様。以下同文でございます。よろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

萬田和正様。

(酒井市長)

萬田和正様。以下同文でございます。よろしくお願い致します。

(渡貫企画政策課長)

長井琢英様。

(酒井市長)

長井琢英様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

西内絵梨子様。

(酒井市長)

西内絵梨子様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

宮本直樹様。

(酒井市長)

宮本直樹様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

森林育代様。

(酒井市長)

森林育代様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

朝日ちさと様。

(酒井市長)

朝日ちさと様。以下同文でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

甲野毅様。

(酒井市長)

甲野毅様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

篠原俊博様。

(酒井市長)

篠原俊博様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

松浦司様。

(酒井市長)

松浦司様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

大塚正也様。

(酒井市長)

大塚正也様。以下同文でございます。よろしくお願いいたします。

## 2 市長挨拶

(渡貫企画政策課長)

続きまして、市長より、今回の審議会発足に当たり、御挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

(酒井市長)

皆様、こんばんは。

本日は大変御多用の中、第1回立川市長期総合計画審議会に御出席いただきまして、ありがとうございます。9月8日から当市の市長に就任いたしました酒井大史でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

第4次長期総合計画が来年度までの計画として最終年度を迎えようとしております。これに合わせて、令和7年度から、次の10年間、立川市の未来を見据えた計画の策定に向けて、審議会の皆様方にいろいろと御助言を賜りたいと考えております。

この基本構想というのは、釈迦に説法かもしれませんが、各自治体における最上位の計画として位置づけられております。そして、その中で、個別の実施計画等が策定され、また、それぞれの年度において予算措置等を行うことによって、実際に立川市の未来をつくっていくことになろうかと思ひます。

現在の将来像は、「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」ということで、第4次の計画が策定されておりますけれども、この計画に沿って、立川市は、確かに交流人口が大変多くなつてまいりました。その一方で、これからの課題は、やはり、立川市にお客様としていらっしゃるだけではなくて、お客様としていらっしゃっていただいた方たちが、立川市を自分たちのふるさととして選んでいただけるように、さらにもう一歩進んだ立川市のまちづくりにつなげていきたいと考えております。どうか皆様方におかれましては、未来に向けて本当に持続可能な、そして未来に向けてさらに発展し、そして子どもたちの笑顔や笑い声があふれるようなまちへと、まさに立川の未来を皆様方のお知恵をお借りしながら、新しい基本構想策定に向けて、御助言いただければと考えております。地域の団体あるいは学識経験者、また、市民公募の皆さん、いらっしゃると思ひます。それぞれの皆さんのふだん活動している団体という枠内の中での専門的な知識をお集めいただくのは当然でございますけれども、それと合わせて、一歩俯瞰して、立川市全体を御覧になっていただいた中で、立川市のこれからのあるべき姿についても、ぜひとも幅広い観点から、御助言等いただければと思ひます。これから数か月にわたりお世話になりますけれども、よろしくお願ひいたします。

以上でございます。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございます。

それでは、開会前ではございますが、会議の公開について御説明させていただきます。本審議会の会議は個人情報等を扱うものではございませんので、立川市審議会等会議公開規則に基づき、原則公開となっております。そのため、会場に傍聴席を設けてございますので、御理解のほど、よろしくお願ひいたします。

### 3 自己紹介

(渡貫企画政策課長)

それでは早速、次第に基づきまして、まずは各委員さんに自己紹介をお願いしたいと思ひてございます。

審議会条例の規定の順番で作成してございます資料2、立川市長期総合計画審議会委員名簿に沿ってお呼びいたしますので、一言御挨拶のほど、よろしくお願ひいたします。

まず、特定非営利活動法人立川市体育協会から御推薦の会長の芦澤委員でございます。芦澤委員、よろしく願いいたします。

**(芦澤委員)**

体育協会の芦澤でございます。どうぞよろしく願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

続きまして、立川商工会議所から御推薦の川口様でございます。

**(川口委員)**

改めまして、皆さん、こんばんは。

立川商工会議所会頭の川口でございます。どうぞよろしく願いいたします。

私どもは、地域の総合経済団体ということで活動しておりまして、私どもとしても、周年ごと、10年ごとに、10年後の立川のビジョンみたいなものをつくりまして、このまちを経済団体としてこうしていきたいというようなものを描いております。ちょうど今年が70周年ということで、70周年としてのビジョンも描きましたので、大分その期間が重複する市の長期計画と、そことの整合性というのをどう図っていけるのかなというので、私がここにいる意味かなと思っております。私は育ちも立川ですので、この立川を今以上にわくわくするまちにすべく、皆さんと今日から意見交換したいと思っておりますので、ぜひよろしく願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、公益社団法人立川青年会議所から御推薦の直前理事長の小林委員です。よろしく願いいたします。

**(小林委員)**

皆さん、こんばんは。立川青年会議所より出向させていただいております小林優貴と申します。どうぞよろしく願いします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、立川市民生委員・児童委員協議会から御推薦の代表副会長の田所委員でございます。よろしく願いいたします。

**(田所委員)**

こんばんは。立川市の民生委員の田所佳洋と申します。立川市の民生委員・児童委員協議会の副会長ということで務めさせていただいております。よろしく願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、立川市文化協会から御推薦の副会長の平澤委員でございます。よろしく願いいたします。

**(平澤委員)**

こんばんは。文化協会から参りました平澤と申します。私、立川には71年、生まれてこの方住んでおりますが、こういった会議に出席させていただくのは初めてなので、皆さんのお力になれるかどうか、ちょっと不安なところはありますけど、よろしく願いします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、立川市子ども会連合会から御推薦の副会長の福永委員でございます。よろしくお願ひいたします。

**(福永委員)**

こんばんは。立川市子ども会連合会の推薦で参りました福永です。

私も子ども会の活動は長くて、地域の子ども会から約30年、ずっとこのような活動を続けております。よろしくお願ひいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、立川市自治会連合会から御推薦の会長の萬田委員でございます。よろしくお願ひいたします。

**(萬田委員)**

皆さん、こんばんは。今御紹介いただきましたけれども、立川市の自治会連合会の会長を務めております萬田と申します。

立川市内には180の自治会がございまして、その各自治会の連合体ということで自治会連合会があるわけでございます。安全、安心で明るく住みよい地域づくりのために、防災や防犯や健康活動の推進を図るとともに、先日、行われましたけれども、立川よいと祭り、市民祭りの楽市なども協力してございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、今回、公募市民は4名の方の御応募ということで参加いただいております。

まず、長井委員、よろしくお願ひいたします。

**(長井委員)**

立川南口から参りました長井でございます。よろしくお願ひいたします。私も生まれも育ちも南口でございまして、南口で商売をずっとさせていただいております関係で、立川にはいろいろなことを助けていただけてきたので、大分、僕も年齢も上がってきましたので、少し何かお返しできることがあればと思つて参加させていただきました。これからもよろしくお願ひいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、西内委員でございます。よろしくお願ひいたします。

**(西内委員)**

立川市の曙町から参りました西内と申します。よろしくお願ひします。

立川市には13年住んでおります。とても住みやすく、ずるずると13年、住まわせていただきました。すごく住みやすいので、これからもずっと住みたいと思つておりますので、何か力になればと思ひ、応募しました。よろしくお願ひします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、宮本委員でございます。よろしくお願ひいたします。

**(宮本委員)**

富士見町在住市民の宮本直樹でございます。約30年、ボランティア活動、地域活動、市

民活動に関わってまいりました。その経験を生かして、お役に立てればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、森林委員でございます。よろしくお願いいたします。

**(森林委員)**

皆様、こんばんは。錦町から参りました森林と申します。森林、多摩地域にぴったりな名前かなというところで、私も錦町在住ですけれども、仕事と子育て支援、そして地域活性化、男女平等参画の事業で会社を錦町で営んでおります。この先の10年、立川の未来が明るいものであるように、皆様と共に考えていきたいと思っております。今回はよろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、学識経験を有する者の区分から、今回、4名の委員に参加していただいております。

まず、東京都立大学都市環境学部教授の朝日委員でございます。よろしくお願いいたします。

**(朝日委員)**

東京都立大学から参りました朝日と申します。専門は経済学で、都市とか環境を扱うあるいは政策の評価を扱うということを専門にしています。今回はどうぞよろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、大妻女子大学家政学部教授の甲野委員でございます。よろしくお願いいたします。

**(甲野委員)**

甲野と申します。よろしくお願いいたします。大学は、多摩とは違う千代田区の靖国神社の隣のだ真ん中であって、何でここにいるのかとお思いかと思っておりますけど、NPOを25年間立川市の方でやっておりまして、職場は23区ですけれども、気持ちはいつも立川市でございますので、何かお役に立てればと思っております。よろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

続きまして、元デジタル庁統括官、現株式会社SHIFTアカウントビジネス推進本部プリンシパルの篠原委員でございます。よろしくお願いいたします。

**(篠原委員)**

篠原でございます。よろしくお願いいたします。もともと公務員だったんですけれども、自治省に入りまして、地方のことをずっとやってきたんですが、辞めるまでの十数年ですか、デジタル関係をやっておりましたので、今、民間会社の方で、国、自治体DXの御支援をさせていただいております。よろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

続きまして、中央大学経済学部准教授の松浦委員でございます。よろしくお願いいたします。

ます。

**(松浦委員)**

中央大学の松浦と申します。もともとの専門は教育の経済学とかということで、教育と格差の話をやっています。中大に入ってから人口学ということで、日本全体の少子高齢化のことをやっております。地域の人口に関しては、これから勉強していくというところもあるんですけども、ちょうどこういった機会がありますので、一緒に勉強していきたいと思っています。よろしくお願いします。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

最後に、市職員といたしまして、総合政策部長の大塚委員でございます。

**(大塚委員)**

行政側の職員として任命されました総合政策部長の大塚と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本市のこれまでの取組であったり考え方など、これから、みなさんの議論、本市の方向性を定めるこの会議の中で、議論についてサポートできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

最後に、事務局でございますが、総合政策部企画政策課が務めさせていただきます。

**(事務局)**

企画政策課、齋藤と申します。よろしくお願いします。

**(事務局)**

企画政策課、夏目と申します。よろしくお願いいたします。

**(事務局)**

企画政策課の矢島と申します。よろしくお願いします。

**(事務局)**

企画政策課の中野と申します。よろしくお願いします。

**(渡貫企画政策課長)**

それでは、自己紹介が終わりましたので、次の議事に移りたいと思います。

#### 4 正副会長の選出

**(渡貫企画政策課長)**

まず、正副会長の選出をさせていただきます。今後の議事進行につきましては、正副会長を選出して、会議を進めてまいりたいと思っております。

資料1を御覧ください。審議会条例第4条第1項の規定では、正副会長は委員の互選によって定めることとしてございます。正副会長を選出するに当たり、座長を選出いただきたいと思いますが、その方法について御提案がございましたら、御意見を願います。

(「事務局に一任でいいかと思います」の声あり)

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

事務局一任というお声をいただきました。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(渡貫企画政策課長)

特に御意見がないようですので、事務局といたしましては、総合政策部長であります大塚委員に、正副会長の選出までの間、座長をお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございます。

それでは、大塚委員には、正副会長を選出するまでの間、座長をお願いいたします。

(大塚委員座長席に移動)

(大塚委員)

ただいま御推薦いただきました総合政策部長の大塚でございます。

正副会長の選出まで座長を務めさせていただきますので、御協力をお願いいたします。着座にて進行させていただきます。

それでは、正副会長の選出を行います。委員の互選ということですので、委員からの御推薦で選出したいと考えますが、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

(大塚委員)

それでは、どなたか御推薦のお願いをいたしたいと思います。

(福永委員)

はい、よろしいでしょうか。

(大塚委員)

はい、福永委員、お願いします。

(福永委員)

座ったままで失礼します。

(大塚委員)

はい、結構でございます。

(福永委員)

僭越ではございますけれども、私の方から、会長、副会長の御指名をさせていただければと思います。

まず、会長には、現在開催されております第5次長期総合計画市民ワークショップで講師を務めていらっしゃる、また、国とか自治体の同様な諮問機関で御活躍されているとお聞きしております東京都立大学都市環境学部の朝日委員にお願いできればよろしいのではないかなと思います。

副会長には、次の大きなテーマとなります人口問題ということで、自己紹介にもございましたように、人口学の専門的な知見をお持ちになっていらっしゃる中央大学経済学部准教授の松浦委員を御推薦させていただければと思います。

よろしくをお願いいたします。

(大塚委員)

ありがとうございます。

ほかに御意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

御意見がないようでございますので、会長に朝日委員、副会長に松浦委員を選出することといたしたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

**(大塚委員)**

ありがとうございます。

それでは、会長に朝日委員、副会長に松浦委員を決定させていただきます。

無事、正副会長が選出されましたので、座長の職を降ろさせていただきます。御協力ありがとうございました。

**(渡貫企画政策課長)**

それでは、朝日委員は会長席、松浦委員は副会長席へ御移動をお願いいたします。

正副会長が決まりましたので、正副会長に就任の御挨拶をいただきたいと思っておりますので、着席をよろしくをお願いいたします。

(朝日委員、松浦委員正副会長席へ移動)

**(渡貫企画政策課長)**

では、朝日会長より、一言お願いいたします。

**(朝日会長)**

それでは改めまして、朝日と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。

今、立川市のお話、御紹介いただいたように、市民ワークショップ「立川そうぞう会議2035」に参加させていただいております。それから、これまで、立川市行財政のお話あるいは公共施設のお話で、ずっと貴重な機会をいただきまして、勉強させていただいてきているところでありますけれども、やっぱり立川市もそうですし、いろいろなところで変化が激しいというのを本当に感じるところで、人口の長期的な話もありますし、デジタルの話もありますし、脱炭素だとか、いろいろなことが言われている中で、大変な時代というか、時期だなどは思うんですけれども、でも、地域のよさとか課題解決を共創だとか協働だとかでやっていこうという動きもすごくいろいろなところで盛んになっていて、明るい話題もたくさんある。それには、いろいろな方が一緒に話し合う場だとか、一緒に何かをやる場というのが本当に必要なんだということ、この何年か、本当に勉強させていただいているところです。いろいろと不慣れで御迷惑をおかけするところもあるかと思っておりますけれども、忌憚なく皆さんで意見を言い合える会になるといいなと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

では、松浦副会長、お願いいたします。

**(松浦副会長)**

改めまして、中央大学の松浦です。

朝日会長とは異なりまして、僕はほとんどこういった場に呼ばれることがなくて、どちらかという、今まで、地味に論文を書いていくという、研究一筋というわけでもないんですが、あんまりこういった形で呼ばれることがなく、ただ、今まで、ずっと国の日本全体の少子高齢化とか、そういった話を分析してきました。あと、格差とか、そういった話をやってきました。

ただ、一方で、もともと私も公務員だったことがありまして、地方公務員の福井県庁で2年ほど働いたことがあるんですけども、やはり、地域の活性化とか地方創生ということにはすごく興味がありまして、さらに地域の人口移動ですね。例えば、都市圏の話ではないんですけど、地方から人口が流出していくとか、地域の移動というところについてすごく興味がありまして、あと、ゼミ生が、例えば内閣官房のデジタル田園都市というところで働いていたりするという、そのゼミ生と話をしたりして、地域の問題ってやっぱり重要だなということで、こういった形で話がありましたので、喜んで引き受けさせていただきました。

ただ、自分はそれほど、今まで地域のことというのをじっくりとやってきたわけではなかったもので、こういった形で、いい機会をいただきましたので、勉強させていただきながら、今までやってきた人口学とか経済学の知見、何か貢献できればいいなと思っています。よろしくをお願いします。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございました。

## 5 諮問

(渡貫企画政策課長)

それでは、会議の進行を会長にお願いする前に、諮問書を市長よりお渡しいたします。市長が諮問書を読み上げ、会長へお渡しいたしますので、会長は起立をお願いいたします。

(酒井市長)

堅苦しい感じで申し訳ございませんが、読み上げさせていただきます。

立川市長期総合計画審議会会長、朝日ちさと殿。立川市長、酒井大史。

諮問書。立川市長期総合計画審議会条例第1条の規定に基づき、次の事項について諮問いたします。

### 1、諮問事項。

立川市第5次長期総合計画における基本構想。

### 2、諮問趣旨。

本市では、令和7年度から10年間のまちづくりの方向性を定める立川市第5次長期総合計画の策定を進めており、当該計画は市政運営の指針となるものです。

これからの10年間は、人口減少や少子高齢化の本格的な進展が予測されるとともに、この数年は新型コロナウイルス感染症、急激な円安などの社会経済環境の不安定さが懸念され、市の行政運営は官民一丸となって可能な限り迅速かつ適切に対処しなければなりません。16年ぶりに新しい市長に代わり、行政の継続性のみならず、変革の民意が示され、次期総合計画はこれまでにないターニングポイントの位置づけとして認識しています。

そのためには、子育てしやすいまちづくり、健康で豊かな心の醸成、SDGsといった地球規模の環境問題を地域でどう捉えるか、そして防災・防犯を中心に市民の安全をいかに高めていくかなど、様々な課題を整理、検討していく必要があります。

また何よりも、市民目線の、市民の役に立つ行政運営すなわち市民満足度の高い、質の高い市役所運営をすすめていくためのご提言や、また行政依存でなく本来の意味での自助・共助・公助のまちづくりの仕組みづくりなども含めて提言いただきたいと思います。

このような状況の中、第5次長期総合計画の根幹をなす基本構想について、貴審議会にご意見を求めます。

以上です。どうぞよろしく願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

ありがとうございました。

それでは、大変申し訳ございませんが、市長は別途、公務のため、ここで退席させていただきます。

(酒井市長)

皆様、よろしく願いいたします。

(市長退席)

(渡貫企画政策課長)

それでは、これからは会長の進行でお願いいたします。

(朝日会長)

よろしく願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、事務局より、会議録の取扱いについて御説明があります。どうぞよろしく願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

それでは、御説明いたします。

市では、立川市審議会等会議公開規則により、会議録を作成し、市政情報コーナーでの閲覧やホームページなど、指定の場所で会議録を公開しております。

事務局としては、委員の氏名が記載された記名式で本審議会の会議録を作成し、公開する方法を御提案したいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは、今の御説明ですけれども、御質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、質問がないようですので、会議録は公開、発言者記名式で作成ということでよろしいでしょうかね。

(「異議なし」の声あり)

(朝日会長)

それでは、会議録は記名式で作成、そして、公開とすることとします。

## 6 第1回立川市長期総合計画審議会 議事

### (1) 第5次長期総合計画の概要

#### ① 長期総合計画について

#### ② 検討体制について

#### ③ 基本構想の答申について

(朝日会長)

それでは、議事に入りたいと思います。

本日は第1回ということですので、この審議会の設置の趣旨、長期総合計画、また、諮

間事項、今諮問いただきました基本構想につきまして、共通認識を持つための資料をたくさん用意していただいております。

「(1)第5次長期総合計画の概要」について、資料を元に事務局より説明をお願いいたします。

**(渡貫企画政策課長)**

それでは、まず本日の資料から御説明させていただきますが、本日、資料1～9、あとは冊子を11冊御用意させていただいておりますが、おそろいでしょうか。よろしいですかね。帰るときに荷物になってしまうかと思ひまして、一番下に袋を用意していますので、よろしく願いいたします。

それでは、まず、資料3を御覧いただけますでしょうか。こちらに基づきまして、長期総合計画の概要につきまして御説明申し上げます。事前配付しているということなので、もし手元になければ御用意いたしますが、資料3、長期総合計画の概要と記されたものでございます。では、こちらに基づきまして御説明申し上げます。

先ほど市長からもお話がありましたけれども、下のスライド番号1ですが、市の最上位計画でございまして、市政の根幹をなす長期的、総合的行政計画でございまして。

下の網かけの部分でございまして、長期的な展望とまちづくりの将来像を示し、めざすまちの姿の実現に向け、社会の変化に対応しつつ、計画的に市民とともにまちづくりを進めていくための市政運営の指針としてございます。

ページをめくりまして、スライド番号2、上のほうでございまして。「長期総合計画」の構成と計画期間となっております。左の図を御覧ください。三角形の上の部分、基本構想となっております。現在、第4次で、平成27年度から10年間の計画としてございます。この基本構想部分が右にあります。将来像と都市像という形となっております。

そして、三角形の下部分が基本計画で、基本構想の具体的な計画となっております。基本構想の10年を5年ごとの「前期」、「後期」に分けて策定したものでございます。中身といたしましては、右の箱にありますように、行財政運営の基本方針と、星印でありますように、施策の37本で構成されてございます。

将来像と都市像はどういうものかといいますと、ページがスライド番号4に飛びますけれども、そこに将来像、先ほど市長からもお話があったように、「にぎわいとやすらぎの交流都市 立川」というのは、平成27年度から10年後の姿として、10年前に定めたところでございます。具体的内容は、この四角の箱にあるとおりでございます。

ただ、将来像はこれだけだと漠然としてございますので、もう少し、「にぎわいとやすらぎの交流都市」という具体的な姿って何なのというものが都市像でございまして、その下のスライド番号5であります。現在、第4次では都市像は5つございます。1つ目が「育ちあい、学びあう文化の香り高いまち」、2つ目が「安全で、環境にやさしい快適なまち」、3つ目が「人々が交流し、さまざまな価値がうまれる活力あるまち」、4つ目が「ともに見守り支えあう、安心して健やかに暮らせるまち」、5つ目が「分権型社会に対応した持続可能なまち」と定めてございます。本審議会では、この将来像、都市像の部分を最終的には答申をいただく予定にしております。

スライド番号3に戻るんですが、「長期総合計画」の施策となっております。「長期総合計画」とか「構想」とか、いろいろ言葉が入り乱れているんですが、本市では、「基本構想」と「基本計画」を合わせたものを「長期総合計画」と呼んでございます。そのうち、

この三角形の上の部分、基本構想が先ほど言った将来像と都市像、基本計画部分が施策と基本事業ということで、右のほう、ちょっと文字が小さいんですが、一番右側が施策となっていてございまして、具体的な事業につながるものでございまして、本市では現在、37の施策で市の施策を進めてございます。

それでは、ページをさらに進みまして、スライド番号8になります。長期総合計画の箱と2つありますが、先ほど少し市長からお話がありましたが、矢印で基本計画の下に個別計画とあります。基本構想の基本計画の下には各分野の個別計画、いわゆる子どもの計画であったり福祉の計画、そういうのがその下に位置づけられて、各事務事業が実施されているというイメージ図になります。

スライド番号9、第5次長期総合計画の計画期間でございまして、昨年度、市では策定方針を定めまして、第5次は令和7年度を初年度といたしまして、10年間の基本構想で、それをまた5年間、5年間の基本計画で実施していく計画としてございます。

続きまして、スライド番号10でございまして。こちらは、今回の策定体制を示した概念図でございまして。下の箱にあります。現在、この審議会の前には、一番下、調査といったところで、まず、市政に関するアンケートであったり、来街者意向調査を実施してございます。それを基に、現在、市民参加の手法といたしまして、市民ワークショップを本年6月～11月の期間で実施しているところでございます。そのほか、市長と市民との意見交換のタウンミーティングであったり、高校生を対象とした高校生ワークショップ、これは既に8月にやったところでございます。これ以外にも中学生を対象とした中学生アンケートも実施してございます。そういった様々な市民同士の御議論等を踏まえまして、今回、その上にある諮問機関等にあたりまして、この長期総合計画審議会で、それらの意見を基に、先ほどの将来像と都市像を策定していただくという流れとなっております。

これと並行して、その横に、行財政問題審議会、総合戦略・SDGs推進委員会とございますが、それぞれの役割につきましては、スライド番号11にありますとおりでございますが、簡単に言いますと、長期総合計画審議会自体は、政策のお話をさせていただく。行財政問題審議会は、その政策を進める上での市の人の話、組織の話、あとは人、物、お金、財政の話、あと情報と、経営資源の使い道については、行財政問題審議会のマターとなっております。あと、総合戦略・SDGs推進委員会というのは、いわゆる人口問題、国でいう総合戦略の部分の担っていくような形でございます。それらを大きく取りまとめて、長期総合計画審議会では御議論いただくとなっております。

策定の体制までについては、以上でございます。

続きまして、資料4でございまして、こちらは現在の第4次基本構想の部分の内容となっておりますので、最終的には、答申のところはこのような形のことをイメージいただけるとよろしいかなと思っております。

雑駁でございまして、長期総合計画の概要についての説明は以上となります。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

今の御説明について、御質問等、お願いできればと思います。

今の段階では、よろしいでしょうかね。

分かりました。それでは、次に移りたいと思います。

## (2) 審議会の進め方（スケジュール）

(朝日会長)

「(2) 審議会の進め方（スケジュール）」について、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

資料5を御覧ください。審議会日程（案）となっております。今回の審議会は、全6回を予定しております。今回、第1回目は10月16日となっております。今日は、立川市の状況と基礎調査等結果報告を中心に、まずは審議会の委員の皆様にご共有認識を持っていただくことをメインにお願いしたいと思っております。

第2回は11月23日と既に設定させていただいておりますが、この日は、先ほど御説明いたしました市民ワークショップの報告会がございますので、実際、そちらの意見をこちらでも御議論いただくということもありますので、市民ワークショップの報告会に御参加いただいて、それを兼ねて意見聴取するような形を取ってまいりたいと思っております。今回、森林委員とかも市民ワークショップで参加いただいておりますので、実際、報告を聞いて、今回、市民ワークショップに10代～80代の方に参加いただいておりますので、それぞれ年代ごとに、様々な御議論、あと、御報告があるかなと思っておりますので、そういった中を、実際、御意見をいただければと思っております。

第3回は12月に予定しております。それらの御意見、市民ワークショップほかの意見等を踏まえまして、今度、将来像、都市像について、また、政策体系、そういったことに本格的に御議論いただく機会を持っております。それが第3回、第4回となっております。第4回は、基本構想骨子（案）となっておりますが、3、4回目が非常にメインになってくるかなと思っております。

第5回は基本構想素案というようところで御議論いただきまして、最終的には、第6回、令和6年5月には答申案をいただければと思っております。それを基に、最終的に市の策定または議会等での御議論に入っていく、そういった予定としております。

スケジュールの説明については、以上でございます。

(朝日会長)

ありがとうございました。

それでは、同じように、今の御説明について御質問がありましたらお願いいたします。

(事務局)

すみません、失礼しました。11月23日ですが、14時30分～16時に、こちらの報告会を予定しておりますので、事前に出欠の確認を取らせていただいておりますが、御予定が合い御出席いただける方は、14時30分に、たましんRISURUホールというところがございます。元市民会館ですが、そちらの御案内が、今日、机上配付いたしました次第資料6、その下にございます。市民ワークショップ報告会会場案内図がございますので、そちらを確認いただきまして、たましんRISURUホールに御参集いただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。当日は受付を設けておりますので、そちらで一言、お声がけいただければと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

(朝日会長)

ありがとうございました。

すみません、スケジュールで、私から一つ、市民ワークショップは一つあるんですけども、基本構想素案自体について、市民の方にパブリックコメントとか、そういった手続というのがありますか。

(渡貫企画政策課長)

基本構想素案については、市で答申をいただいた後に、来年の9月に議会報告をいたします。その後に市民のパブリックコメントを行う予定でございます。

(朝日会長)

分かりました。大分、議会も通ってという、その後になるわけですね。

(渡貫企画政策課長)

そうですね。

(朝日会長)

はい、分かりました。ありがとうございます。

ほかに御質問ございますか。

それでは、御質問はないということで、では、次に移らせていただきます。

### (3)立川市の状況

(朝日会長)

それでは、「(3)立川市の状況」について、事務局から御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

それでは、まず立川市の状況ということで、本日お配りしている資料6を御覧ください。こちらに基づきまして御説明申し上げます。

立川市は、御存じのとおり非常に平らなところですけど、周辺が8市に囲まれまして、面積自体は24.36km<sup>2</sup>、多摩地域でいうと10番目の広さでございます。ちょっとそこは資料はないんですけども、御存じのとおり、立川市には立川飛行場がすぐ横にあったりとか、横田基地があったりとか、そういった土地になってございます。

今日は、主に人口動向と財政状況と社会指標の3つの視点で、まずは御説明してまいりたいと思っております。

それでは、ページをめくりまして、スライド番号2でございます。立川市の総人口の将来見通しでございます。後ほども少し御説明いたしますが、ここで立川市の総人口の人口推計が出ましたので、その数値を拾ってございます。目盛りの一番左が2023年、右側は2065年となっております。棒グラフが人口の推計でございます。黒い折れ線グラフは、前回の平成30年のときの人口推計となっております。平成30年のときを下の目盛りにありますように、2025年をピークに緩やかに人口減少していくような予定でございましたが、今回、最新の人口推計では、右側に2028年で黒枠になっていますが、2028年をピークに緩やかに人口減少ということで、人口の減少局面が少し後ろ倒しになったというような推計となっております。

続きまして、スライド番号3でございます。こちらは立川市の年齢3階層別人口の将来見通しとなっております。棒グラフが総人口です。折れ線グラフの三角でつないでいるものが15歳～64歳、いわゆる生産年齢人口の推移となっております。生産年齢人口は2025年のところがピークになっております。続きまして、下の黒丸で点線を結んでいるのがいわゆる65歳以上の高齢人口でございます。こちらはずっと右に行くと、2055年までは緩や

かに増加するということになってございます。一番下の折れ線グラフ、四角で結んでいるものでございますが、こちらは年少人口、いわゆる0歳～14歳でございますが、こちらも2023年から既に人口減少が進んでいるような状況でございます。最終的に、下のほうに、ちょっと見にくいんですけども、0歳～14歳、15歳～64歳、65歳以上ということで年齢構成がありますが、今、0歳～14歳が11.6%⇒9.4%、生産年齢人口が63.7%⇒53.1%、65歳が24.8%⇒37.4%、最終的にはそういった数値と推計されているところでございます。

続きまして、スライド番号4でございます。細かくて申し訳ないんですが、こちらは合計特殊出生率の推移でございます。1人の女性が生涯に産むと推定される子どもの数でございます。一番上の折れ線グラフが全国でございます。右側に行けば行くほど年度が進んでいますが、2021年段階で、国が1.30です。その間の実線の四角で結んだグラフが立川市の合計特殊出生率で1.14でございます。2019年ぐらいから、一気に下がってきています。一番下の点線の折れ線グラフが東京都でございます。2021年で1.08となっております。人口置換率で言いますと人口維持では2.07となっておりますので、それから比べると、かなり下回っているような状況が見てとれると思います。

下に図表2と書いてありますが、こちらは出生数・死亡数及び自然増減の推移ということで、棒グラフのうち、網かけの灰色の部分が出生数、下の斜めの線で塗られているところが死亡数でございます。グラフを見ると、2012年から既に自然減が続いている、生まれる数よりも死亡している数のほうが多いような状況が続いてございます。

続きまして、スライド番号5でございます。図表3は転入者数・転出者数及び社会増減の推移でございますが、棒グラフのうち、上の部分が転入者、下の部分が転出者でございますが、これを見ますと、2013年からは逆に社会増が進んでいるようなところがございませう。立川市の場合は、自然減は進んでいますが、社会増で何とか人口増が維持されているような状況でございます。

その下の図表4が年齢別社会増減の推移でございます。下の横の目盛りが0～4、5～9と5歳刻みになってございます。縦軸のメモリ、真ん中辺に0がありますが、社会増減がプラスの場合は上、下がマイナスでございます。点線で囲ってございませうが、ちょうど2013年のときが、点線のグラフですが、25歳～39歳が0を下回ってマイナスだったんですが、2022年、実線のところでは、既にそこが回復して、25～40ぐらいまでの間におきましても社会増が増えてきた、そういった図表となっております。

ページをめくりまして、スライド番号6、7とあるんですけども、時間の関係上、ここは飛ばしますが、性別年齢別の人口移動であったり、スライド番号7は広域的な人口移動についてで、立川市の場合は地方部からの人口流入が多いという図表なので、また後ほど見ておいていただければと思っております。

続きまして、右側のスライド番号8でございます。図表6-1とありますが、こちらは昼夜間人口比率の推移となっております。昼夜間人口というのは、常駐人口、いわゆる夜間人口を100とした場合に、昼間の人口の数値を比率で表したものでございます。100を超えている場合は、夜よりも昼間の人口のほうが多いということでございませうが、立川市の場合は、一貫して昼間人口が夜間人口を上回っている、昼間でも多くの方がいらっしやっているというような状況でございます。

その下が図表6-2でございます。2020年の多摩26市を比べたものでございませう。立川市は左から2番目の棒グラフになってございませう。113.2です。100を超えているところ

は、これを見ていると武蔵野市と立川市ということで、多摩市も若干100ぐらいですけども、多摩26市でも断トツに昼間人口が多いというような特徴がございます。

続きまして、下のスライド番号9でございます。こちらは多摩26市の10年間の人口推移ということで、縦軸に八王子市から西東京市、横軸に2013年から2023年で、一番右側の2つが2023年度の人口と比較した場合と、2018年のときと比べた人口の推移の状況でございます。立川市は上から2番目のところでございますが、2013年比で見ても104%ということで、人口が増加している。2018年でも102%となっております。多摩の中でも既に人口減少が始まっております。例えば上から5番目の青梅市は、10年前と比べて94%となっていたり、下の武蔵村山市であったり、羽村市、あきるの市は、既に10年前と比べて人口が減少しているような状況が分かるかと思っております。比較的、多摩地域は、まだ人口が若干伸びているような状況がございます。

続きまして、スライド番号10、多摩地域の人口規模でございます。こちらにつきましては、ある学者さんなんかも、多摩地域全体を一つの圏域とみなしてまちづくりを進めていくような、前回の会長なんかもそう言っていたんですけども、市民ワークショップでもそういった議論がありまして、少し比較で出しております。グラフは多摩地域の全体の人口と面積でございますが、多摩地域だと400万人。一番下に仙台市から、まだありますけれども、立川周辺9市だと100万人となっております。多摩地域の人口自体は、横浜とか大阪よりも多い。また、立川周辺9市は総人口が仙台市よりも多い、そういった状況も見えてとれるといったところでございます。

続きまして、立川市の財政状況について、若干、御説明申し上げます。

スライド番号12になります。こちらは、横軸が決算、ちょうど今、決算議会を行っておりますが、令和4年度、令和3年度と、また増減額ということで、令和3年と4年を比較した増減額があります。立川市の歳入総額は、令和4年度は998億円、歳出総額は933億円でございます。実質収支は約51.9億円となっております。

その下でございますが、地方債残高、いわゆる借金の部分が284億円。積立金現在高、いわゆる基金部分が約334億円、経常収支比率は82%、実質公債費比率、いわゆる借金の比率は1.9%という状況でございます。

下のスライド番号13は立川市の財政構造（1）歳入の状況でございます。左側の大きな丸を見ていただきますと、市税の部分が415億円で一番比率が大きい。その後には、国庫支出金ということで国からの支出金、あとは東京都の支出金、あとは使用料等が入っているような状況でございます。

続きまして、スライド番号14になります。こちらは市税収入の構造、先ほど税の部分が大きいですとお話しいたしましたけれども、では、税の中の構造はどうなっているのかといったところでございまして、右上が個人市民税で約34%、143億円となっております。その後法人市民税38.5億円で9%。固定資産税、軽自動車税、そういう割り振りになってございます。

立川市の場合、法人市民税の割合が高いという特徴があるというお話をさせていただいてございまして、下のスライド番号15を見ていただきたいと思うんですが、左が地方税の多摩26市の状況、真ん中が地方税のうち法人市民税の金額の順位です。右側が地方税に占める法人市民税の割合となっております。立川市は、法人市民税自体は先ほど言った38億円となっておりますが、割合としては、右側にありますように9.3%で、府中市に次

いで非常に多い。全市平均5.7%からすると、その2倍以上を法人市民税が占めているというところで、景気に左右されやすいという一面も持っているところでございます。

続きまして、スライドを一つ飛ばします。スライド番号17、収益事業からの繰入金金の推移を御覧ください。こちらは、いわゆる競輪事業、立川市は、皆さん御存じのとおり、昔から競輪がありまして、ちょっと年代が違っていますが、1951年、昭和26年から競輪事業がありまして、競輪事業の収入を一般会計へ収益を繰り入れてきたという歴史がございます。なので、昔は1開催すると学校が1校建ったという時期もありまして、この棒グラフは投資的経費ですが、折れ線グラフがいわゆる収益事業収入ということで、競輪事業から市の財政に繰り入れてきたお金の推移でございます。ピークといたしましては、囲ってありますが、平成元年度に最高で78億円を市の財政に繰り入れてきたという歴史がございます。それをもって、この投資的経費というのは、いわゆる建物や道路といった後に財産で残るものですが、そういったものの経費に多く充ててきたところでございます。収益事業収入はピークは78億円であったんですが、現在、右のほうにずっと行きますと、平成17年ぐらいでほとんど底をついていまして、現在、令和4年度でございますが、競輪事業からは2億円の一般財源への繰入れという形になってございます。そういった形で、以前ほど競輪からのお金は見込めないという状況が見てとれると思っております。

続きまして、スライド番号18になります。地方交付税についてでございます。地方交付税自体は、御存じの方も多いうように、自治体間のサービス維持を一定にするために国からお金を頂くものですが、地方団体で収入が多いところにつきましては、地方交付税はただけでない形になっているんですが、交付団体というのは国から補填をいただける、不交付団体というのは国からお金を頂けないということですが、立川市の場合、右側の不交付団体に入っています。多摩26市では、立川市のほか、武蔵野市、三鷹市、府中市、調布市ということで、財政状況がよいというようなところはあります。ただ、この交付税につきましては、結構、市としても課題と思っております。これがないことによって、結構、市の負担が大きくなる。例えば予防接種事業なんかも、法定化されているものは国と市町村が応分の負担をしていくんですけども、地方交付税をいただける交付団体につきましては、市町村負担分も後で交付税で措置してもらえらるということで、市町村負担がほとんどないんですね。逆に言うと、不交付団体というのは、市町村が負担するものはそのまま負担せざるを得ないというようなことありまして、立川市もこの辺で財政的にはなかなか厳しい状況があるといったところでございます。

続きまして、スライド番号19でございます。こちらは(2)歳出〔性質別〕となっております。左側の歳出ベースのほうが見やすいかもしれません。人件費で約108億円、これは職員給与等です。あとは扶助費ということで、社会保障的な意味合いのものが約3割、あと、公債費ということで借金の部分ですね。あと、物件費というのは委託で、維持補修費、補助費等、積立金・貸付金とか繰出金、そういったもので性質別となっております。

スライド番号20と21は、そういった推移が出ています。スライド番号20は義務的経費と言われるもので、必ず支出しなければいけないような数字となっております。特に注目していただきたいのが、上から2番目のグラフの扶助費の部分でございますが、平成14年のときは37億円だったのが、現在、67億円ということで、少子高齢化とともに、この辺が非常に多く支出されてきているような状況があるということが見てとれると思っております。

ちょっとページを飛ばしまして、スライド番号22をお開きください。こちらは(3)地方債・基金となつてございます。右側の基金、立川市は基金が、貯金がいっぱいあるんだよというようなお話を聞いたことがあるかと思いますが、では実際どうなのかといったところでございまして、基金残高は334億円でございます。そのうち、財政調整基金、いわゆるこれが今回のコロナみたいなときに臨時的に財政支出が必要な場合にとっている貯金の部分です、それが113億円。その横が公共施設整備基金ということで、後ほど少しお話ししますが、いわゆる公共施設の老朽化が非常に進んでございまして、今、建て替えを進めてございます。その建て替えに使うお金がここになってございます。大体、学校を一つ建て替えると40億〜50億ぐらいかかるんですけども、立川市は小学校が19と中学校が9ありますけれども、全部賄えない、そんな状況になってございます。

下のスライド番号23は基金残高の推移ということで、立川市のポイントは、引き続き、公共施設整備基金を中心に積立てをしているような状況でございます。

スライド番号24と25でございます。立川市、一体、財政状況はどうなのといったところでございますが、スライド番号25は、まだ4年度は出ていませんが、3年度の実績でいきますと、財政力指数で立川市は1.14、類団平均0.92から見ても、比較的、財政力は高いというような位置づけとなっております。

また、経常収支比率、いわゆるこちらは低ければ低いほど新しい事業ができるというものでございますが、立川市は86.8%でございまして、類団平均89.4%よりも経営状況がいいということが見てとれます。

下の実質公債費比率でございますが、立川市は1.8%、類団平均が3.6%ということで、この辺も借金の比率ですけども、健全な財政運営をしているということは見てとれると思っております。

スライド番号26に飛びます。こちらは令和5年度一般会計当初予算ということで、現在の歳入、歳出の状況でございますので、こちらはまた後ほど見ていただければと思っております。

説明が長くなって申し訳ないんですが、最後に、立川市の社会指標ということで、幾つか挙げさせていただいてございます。

スライド番号28でございます。子ども・学び・文化の政策のところでは、保育所入所待機児童数の推移があります。左側がいわゆる待機児童の推移が折れ線グラフでなっております。右側が多摩26市を見た場合の保育所入所待機児童数の推移でございまして、令和4年4月1日では、待機児童13人といったところでございます。ほぼ、保育所の待機児童は解消しているような状況でございます。

下の方が学童クラブの待機児童数の推移でございます。逆に、こちらのグラフは、平成29年217人、令和3年155人ということで、依然として、学童については待機児が多いという状況でございます。

続きまして、スライド番号30です。環境・安全の部分では、立川市の1人1日当たりのごみ量を示してございまして、多摩26市と比較いたしますと、1人当たりのごみの量が下から4番目、黒い棒グラフですが、なっております。より分別していただいている状況が分かると思っております。右側が総資源化率で、総資源化率が高くて、ごみの量も少ないということは、皆様が分別を徹底いただいている形が見てとれると思っております。

下のスライド番号31が都市公園の面積となっております。グラフが1人当たりの都

市公園等面積、右が都市公園の総面積となっておりますが、立川市は、八王子市、町田市多摩市、府中市に次いで5番目となっております。この数値は、御存じのとおり、多くは昭和記念公園の部分があって、170万㎡のうち100万㎡が昭和記念公園となっております。

続きまして、スライド番号32でございます。こちらは立川市の人口千人あたりの刑法犯認知件数となっております。ずっと減ってきたグラフになってございますが、令和4年になって少し増えているような状況で、右側の多摩26市を比べた中でも、武蔵野市に次いで、刑法犯認知件数は多い部類に入っているのかなということが見てとれると思います。

次の環境・安全のスライド番号33は空き家率となっております。多摩26市と比較してございますが、8番目に高くなっている状況でございます。

続きまして、スライド番号34でございます。こちらの右側の図が、JR東日本の立川駅、西国立駅、西立川駅の乗車客数となっております。一番上の折れ線グラフが16万7,000とか、一番右側は13万人となっておりますが、立川駅の乗車客数でございます。下が西武鉄道の乗車客数となっております。立川の乗車客数は、御存じのとおり、2021年、中央線沿線では新宿に次いで2番目となっております。

下のスライド番号35でございますが、こちらは令和4年1月時点の住宅地の地価公示価格でございます。立川市は非常に高いと言われるところもあるんですが、右側を見ていただきますと10番目の高さで、立川市よりも国立市さんとか国分寺市さんのほうが若干高いような状況でございます。

次のスライド番号36でございます。こちらは立川市の年間商品販売額でございます。左側が多摩26市で年間商品販売額を比べたもの、右側が1店舗当たりとなっております。多摩26市では八王子市に次いで多い8,100億円となっております。

その下のスライド37が農地面積の割合でございます。多摩26市で比較すると、立川市は比較的、農地面積が多いという状況が見てとれると思っております。

若干スライドを飛ばしまして、スライド番号39でございます。こちらは行政経営・コミュニティでございます。左側の図は自治会加入率でございます。こちらは年々低くなってございまして、令和4年で35.6%となっております。右側の棒グラフは、NPO法人の数でございます。多摩26市の中では立川市は非常に多いほうの部類ということが見てとれると思います。

続きまして、スライド番号40でございます。先ほど少し触れましたが、こちらは市内の公共施設の老朽化を見た棒グラフでございます。棒グラフのうち、右側が築50年～59年経っている公共施設の面積の割合ですが約36.3%、40年～49年が27.5%ということで、市内公共施設のうち、約8割が築30年以上経っているということで、コンクリートの寿命が60年～70年という形になると、既に建て替えの時期が来ている、安全性が問題になっているという状況がございます。

下のスライド番号41は、市民1人当たり公共施設延床面積ということで、また後ほど御覧になっていただければと思っております。

最後に、スライド番号42でございます。こちらは東洋経済ONLINE「住みよさランキング2023」といったところから勝手に抜き出しているんですけども、立川市は鎌倉市等に次いで14番目の位置ということで、多摩26市のうち武蔵野市が2位に入っていますので、そこには大きく水をあげられています。そういった位置づけで見られているよう

な状況がございます。

非常に長くなりまして、雑駁な説明でございますが、以上となります。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

立川市の状況について御説明いただきました。何か御確認しておきたいことや御質問はございますか。

大丈夫そうでしょうか。

では、甲野委員、お願いいたします。

**(甲野委員)**

質問としては、現状としては分かったんですけれども、何となくいろいろなことが予想はできたんですけれども、市の内部として、例えば人口ですとか、特にこれから一番関係してくる財政ですとかに対しては、どのような見解をお持ちなのかということをしりたいんですけれども、よろしいでしょうか。

**(渡貫企画政策課長)**

人口につきましては、先ほど言いましたように、当初、令和5年がピークということで想定はしていたんですけど、それよりも人口が伸びているというような状況がございます。そこにつきましては、人口戦略ということで、立川市としても少し力を入れたい。先ほど言った25歳～大体40歳ぐらいの年齢が転出増という状況が10年前はあったんですけれども、そこに力を入れようということで、子育て世代、いわゆる先ほど言った保育園の待機児童対策であったりとか、シティプロモーションといたしまして力を入れて、今日来ていただいた方は分かります、モノレールのところでね、都市軸沿道というような地域、国有地なんですけれども、そこにおいては、固定資産税の相当分、2分の1ですけど、それを減免することによって企業に誘致していただけるというような形で、企業誘致であったりというような戦略を進めてきたことによって人口も増えてきたのかなということもあるので、人口問題については、一定程度、成果を上げてきたのかなと思っています。

後ほどでも来街者の意向調査等も行うんですけれども、立川市に住みたいとか、そういった状況も増えてきているので、施策的には何とかうまく進んできたのかなというのが人口問題についての評価でございます。

また、財政状況につきましても、公債費比率を見ていただくように、一時期、立川駅前のフェアレ地区を開発等することによって非常に借金は増えたんですけれども、その中でも、借換えを進めたり、健全な財政、行財政改革というのが前の市長のときの一丁目一番地の施策でありましたので、そういった中では民間委託等を進めながら行革を進めて、一定程度、健全な財政、先ほども多摩26市の中で財政状況を見させていただきましたけれども、その中では非常にいい財政運営をしてきたのかなという形では、一定程度、評価しているところでございます。

以上でございます。

**(甲野委員)**

こういう会議ですと、比較的ネガティブなところからスタートして、いかにクリアしていくかというのが、比較的、明るい材料があって、それをさらに伸ばして……。

**(渡貫企画政策課長)**

これまではですね。当初の予想よりはうまくいったというような傾向があるという

ことでございます。本日御配付している第4次長期総合計画の中間総括というのがあるかと思うんですけど、今年の3月に1回、市としては、中間総括ということで、この10年間の振り返りを行ってございます。7ページ目をお開きいただきたいと思っております。将来像・政策全体総括となっております。先ほどの5つの政策と37の施策とあります。ちょっと見にくいんですが、上のレーダーチャートで、一番上が1～37あるんですけども、これは施策の番号でございます。施策ごとの指標、目標値を設定してございまして、それにどれだけ到達しているのかというのを表したものでございます。37施策あるんですが、26施策で成果指標の目標到達率が去年の段階で80%を超えてございまして、これはレーダーチャートが丸くとなると全部達成したとなくなっていくんですが、ほぼ80%、37施策のうち26施策で80%を超えているのがありますので、そういった中では順調に進んできているというのは議会にも報告しているといった状況でございます。ただ、一方ではまだ施策が進んでいないのも、このレーダーチャートを見て分かると思っておりますので、これは残りの期間で達成していこうとは考えている格好でございます。

以上でございます。

**(甲野委員)**

はい、ありがとうございました。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

宮本委員、お願いいたします。

**(宮本委員)**

御説明ありがとうございます。全体を通して、私も、自治体経営として、おおむねうまくいっているのではないかと少し安心いたしましたところですが、そういう中で、ちょっと心配だなと思うところが1点、スライド番号32の刑法犯の認知件数のところ、若干多いんだなということを改めて確認いたしました。

また、スライド番号42では、住みよさランキング、いいんだけども、その中でも安心度が足を引っ張っている感じがございまして、ああ、こういう傾向かということで、これにはひょっとして立川の特性があるのかなという気もいたしまして、例えば駅周辺と駅から離れたところでは違う傾向があるのかもしれないけど、そうしたデータというのはお持ちなのかどうか、もしあるようでしたら、今無理なようでしたら、次回以降お示しいただきたいなと思っております。

また、刑法犯というのは一体、刑法犯にもいろいろあろうかと思えます。それも立川の特性があるならば、それを教えていただきたいと思えます。やはり、何といたっても安心して暮らしていけるということはとても重要なことでありまして、こここのところを全体的にうまくいっているからここはいいやというようなわけにいかない話でございまして、ここに対する対策というのも、しっかり立てていかなければいけないのではないかなと考えている次第でございます。

以上です。

**(渡貫企画政策課長)**

ありがとうございます。

宮本委員おっしゃるように、本当に駅周辺は非常にまだまだそういった心配があるということで、今回、酒井市長もその辺を公約に掲げて、そういったところを改善していきたい

いとおっしゃっていたところでございます。数字的にどうかといったところですが、体感治安というような形になるかどうか分からないんですけど、毎年、立川市では市政に関するアンケートを取ってございます。そこについての指標は持っているんですけども、駅周辺以外のところの体感治安については数字は取っていませんので、後ほど、駅周辺の体感治安については、また御報告したいと思います。

また、スライド番号32の立川市の刑法犯の特徴でございますが今日、資料にはないんですが、やはり窃盗関係が非常に多くて、自転車が盗まれるという事案が約3割。その次に多いのが万引きで13%ぐらいです。逆に凶悪犯は1%を切っているような状況で、立川市は窃盗とか自転車盗、全体もそうなのかもしれませんけれども、そういった状況になってございます。自転車が盗まれているのは本当に立川市の特徴かもしれませんけど、そういった数字があります。

あと、先ほどありました立川駅周辺地域での安全、安心の確保はなされていると思えますかという体感治安を聞いた数字ですが、「思う」、「どちらかといえば思う」というのが、令和4年度で79.6%、5年前の平成30年が75%ということで、少しずつ、安心、安全の気持ちは確保なされているような状況かと思えます。逆に、安全、安心の確保がなされていないと思っている方が平成30年時点では22%だったのが、令和4年度では19%、若干よくなっているような状況は見えておられると思っております。ただ一方で、先ほど言ったところは、まだまだ課題なのかなと思えます。

以上でございます。

(萬田委員)

ちょっとよろしいですか。

(渡賞企画政策課長)

はい。

(萬田委員)

私、立川警察の防犯協会の会長もやっているので、立川署管内の防犯状況というか、犯罪状況は、現在のお話を若干いたしますと、刑法犯罪、刑法犯認知件数と言うんですけども、令和4年から増えています、そういう状況でございます。なぜ増えているか、やっぱりコロナの感染が少しよくなってきたようなことから、都市部においては、にぎわいが戻ってきている。そういう状況の中で、刑法犯の認知件数が増えていますね。でも若干、いろいろな犯罪も増えている。その中で、今、何が増えているかなという、やはり特殊詐欺が非常に多いんですね。それから、そのほかに市民の生活を脅かすような侵入盗ですね、住宅への侵入、未施錠のところの侵入盗というのは非常に増えているんですね。それから、もう一つは自転車を盗む自転車盗も増えている。それから車上狙いとか、そういう犯罪が今非常に増えている、そういう状況でありまして、今、全国地域安全運動を10月11日～20日まで、全国的に展開して、安全を守るというようなことでやっているんですけど、そういう中で、やっぱり重点地区というのは成り立っている。やっぱり女性と子どもの犯罪抑止というんでしょうかね、それが一つ。それからもう一つは、特殊詐欺の犯罪をなくす。それから闇バイトですね。闇バイトも犯罪加担になります。それも犯罪を少なくしていくというようなことですね。今いろいろ、この10月はそういうことで立川市内の犯罪を少しでもなくしたいということで、いろいろな防犯の活動を重視しているところでございます。

簡単ですが、以上です。

(朝日会長)

直近の情報をいただきまして、ありがとうございました。安全、安心は、やっぱり大きな話題になってくるかと思います。ご質問ありがとうございます。

#### (4)基礎調査等結果報告

(朝日会長)

そうしたら、次、立川市の状況に関連して、調査結果というところもありますので、続けて、(4)番に移ってから、また御質問ということにさせていただきたいと思います。それでは、「(4)基礎調査等結果報告」についても、御説明をお願いいたします。

(渡貫企画政策課長)

資料7と資料8と資料9をまとめて御説明いたします。

まず、資料7でございます。先ほども少しお話しいたしましたが、将来人口推計調査結果概要となっております。

(1)総人口の将来見通しにつきましては、先ほどお話ししたとおりでございますが、前回の推計では、総人口が令和7年に18万4,839人でピークを迎えるという予測でございましたが、今回は、令和10年、2028年に18万6,390人でピークを迎える推計となったといたしております。総人口はその後も減少を続けて、令和47年、2065年には、令和5年度と比べて2万6,333人、14.2%の減少となると推計されてございます。

右の年齢3階層別人口の将来見通しでございます。こちら先ほど御説明したとおりとなっております。既に0歳～14歳につきましてはピークを過ぎて、少子化が始まっているといったところでございます。

左下の(3)が男女別人口の将来見通しで、左が2023年、右側が2065年ということで、次第に層が上に上がっていつている状況が分かるかと思えます。

(4)は町別人口の将来見通しということで、町別に少し出してございます。こちら市民ワークショップ等で町別に課題をとというようなお話もありましたので、町別に見た場合については、こういった特徴がそれぞれという状況がございます。

人口については、一旦、以上です。

続きまして、資料8の来街者意向調査結果概要を御覧ください。こちらは、いわゆる立川市外から来た方をJR立川駅の北と南のペDESTリアンデッキで延べ775サンプルをアンケート形式で取った内容でございます。

(1)は、あなたのお住まいはどちらですかという形でお聞きしてまして、居住地は「多摩地区」が最も多くて、73%の方が多摩地区から立川市に来ていらっしゃる。そのうち、周辺8市の方が34%となっております。

次に、右側の(2)来街の目的は何ですかということもお聞きしてございます。このグラフで見てとれるように、1番は「買い物」、その次、「友人・知人と会う」、「食事」、「仕事・通学」、「趣味・娯楽」というような順番で大きく傾向が見てとれるかなと思っております。

左下の(3)立川と聞いて思い浮かぶイメージはどれですかと聞いたところ、一番多いのがこのグラフでありますように、「国営昭和記念公園」という方が非常に多く、そのほかに「飲食店・個店」のイメージ、「デッキ・大型商業施設」のイメージであったり、「アニメ

やドラマの舞台・ロケ地」というイメージ、そんなところがあるところがございます。

次に、(4)立川は「住んでみたい」と思える魅力のあるまちですかと聞いてございます。「思える」と「やや思える」を合わせた「住みたい」割合は、このグラフにありますように、来ていただいた63%の人は、立川に住んでみたいという回答結果が出たところがございます。

では、「住みたい」理由を聞いたのが下のところがございます、上位5項目をしていますが、やはり、「買い物など日常生活が便利である」、「通勤・通学が便利である」、「自然環境に恵まれている」、「都心へのアクセスが良い」、「公園や道路など都市基盤が充実している」、そういった理由を掲げていただいた結果でございます。

最後に(5)と(6)でございますが、立川の良いところ、悪いところを自由記述で書いていただいております。こちらにつきましては、先ほどの来街の目的であったイメージと重なってくるかもしれませんが、良い点では、「お店、商業施設、買物」、「交通アクセス」、「自然、緑、公園」、そういったところが上位で、逆に立川の悪いところにつきましては、先ほども御議論になりましたが、「治安、雰囲気悪さ」、「混雑」、「景観」、そういった回答があったところがございます。

続きまして、資料9でございます。こちらは、今、市民ワークショップ自体は18歳からやっているんですが、その下の年代の方たち、それから、中学生、高校生は10年後はいい大人になってまいりまして、立川市を背負っていく世代でございますので、そういった方たちの意見を聞いていこうということで、中学生は2年生を対象に市内の中学校に御協力いただきましてアンケートをしました。

左側が中学生アンケートの結果で、905件であります。中学生に聞いた、あなたは立川市の魅力は何だと思いますかといったところ、中学生もやはり、「買い物など日常生活が便利である」、「自然環境に恵まれている」、「公園や道路など都市基盤が充実している」、「通勤・通学が便利である」、そういった結果が得られたところで、ほぼ来街者と似ているような状況となっております。

また、その下、あなたは将来も立川市に住み続けたいと思いますかといったところでは、「思う」、「どちらかといえば思う」が71%で、「思わない」、「どちらかといえば思わない」というのが28%でございました。理由としては、ここに掲げているとおりでございますが、あまり住み続けたいと思わない理由は、若い世代は、もっと世界で活躍してみたい、大谷選手みたいな子がいっぱいいるんだなと思いますけど、行く行くは立川に戻ってくるのかなというの少し見てとれると思います。

(3)あなたが立川市の「市長」だったら、これからの10年間で最もやってみたいこと(政策)を書いてくださいといったところを箇条書できています。それぞれの分野でまとめていますが、子ども・学び・文化に関する意見は462件ありまして、これ以外にも、中学生なので、校則に関する意見とかが結構多かったと思います。あとは環境・安全に関する意見は155件、都市基盤・産業に関する意見については183件、大きな遊園地をつくりたいとか、福祉・保健に関する意見は、バリアフリーを増やして、誰もが暮らしやすくする、そういった意見が見てとれました。

右側の(4)でございますが、あなたが考える未来の立川のスローガン、中学2年生には、いわゆる将来像を聞いています。ここでは全て羅列していないんですが、キーワードを分析した結果、こういったキーワードが見てとれるといったところがございます。

右側が高校生ワークショップということで、高校生は実際に、アンケートではなくて、市内の高校、中等教育後期課程に通学する生徒たち15名と、あとは市民ワークショップに参加している大学生がファシリテーターを行って、実際に高校生ワークショップを行いました。1班～4班までということで、その中で、私が住みたいまち、立川。あとは、私が行きたいまち、立川。住みたいと行きたいを分けて、それを将来像として考えていただいたところでございます。

これらの中学生アンケート、高校生ワークショップ等の結果の詳細は、本日、配っている資料冊子に多分あると思いますので、詳細はこちらを御覧いただくと、非常に面白い意見があるかと思っております。

一旦、こちらの説明は以上となります。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

いろいろ調査もしていただいているということで御説明いただきました。今の御説明で、何か御質問、確認ございますか。

**(長井委員)**

ちょっと聞かせていただいているいいですか。

**(朝日会長)**

はい、お願いいたします。

**(長井委員)**

質問ではないんですけど、初めてこういう席に参加させていただくもので、ちょっと教えていただきたいんですけども、人口統計、40年先ぐらいまでの推移がこの図に入っていますが、今後のことを考えていくには、どうしても人も必要ですし、例えば収入源も必要になるかもしれないですね。税収の予想的なものというのはお持ちなんですか。

あと、特に最近では、昨今、よく言われるふるさと納税的なもので、市内に投資していくようなものも結構あると思うんですが、人口が減っていく、そうすると、総体的に、特に一番働き盛りの人たちが減っていくわけではないですか。そうすると、直近で当たるのは個人市民税が下がるのかなという気がしますよね。全体的に総収入が下がってしまいうのかなという予想ができてしまうのと、確かに固定資産税なんかが、今年なんかも10%から30%ぐらいに上がっていますから、そういうところで逆に補填していく気持ちであるのであれば、立川市の財政はある程度確保できるから、ポジティブにものを考えていけるんですけど、やっぱり少し緊縮な方向は喜ばしいのであれば、そういう意見の方向づけなのかなという気がちょっと今、説明いただいている中で思ったので、その辺のところ、市さんの思いというか、考えがあれば、今後の参考に教えていただければ。

**(渡貫企画政策課長)**

今回、間に合えば、財政シミュレーションも最終的には行って、ここで審議していく題材にはしていきたいと思っております。現段階ではちょっとまだ、財政部門からシミュレーションが間に合っていないということもあって出してはいないんですが、おっしゃっていただいたような、大枠には、個人市民税自体については、生産年齢人口が減っていくというような段階になれば、そういったことは予想されるのかなとは考えているところでございます。

**(大塚委員)**

すみません、今日お配りしている立川市第4次長期総合計画後期基本計画という来年度の部分がある冊子があるんですけども、こちらの中には前回の分の財政の見通しということで、19ページ、一旦、今までのこういう、ここに出ているようなものを、これからまた財政当局と調整させていただきながら、今後、令和6年度以降、このような形のものを少し整理して、皆さんにお示しできるかなとは思っています。まだ、人口が最終的には減ってきてはいないので、若干、景気もいいという状況がありますので、税収は、若干は上振れしつつ来ていますけれども、やはり、もともとお住まいになる方が減ってくる、また、高齢化が進んでくるということであれば、どうしても税収という部分に関しては少し、市民税の分、個人市民税の部分に関しては、どうしても確保が難しくなってくるので、その辺を踏まえた形で、少し検討していかなければいけないなとは思っています。ただ、ほかの部分でも税収は入ってきますので、その辺を少し期待しつつ、ただ、先ほど言われたふるさと納税という部分は、立川の場合は逆に外へ出ていく額が年々非常に大きくなってきていますので、そこは非常に心配しているところになります。

**(渡貫企画政策課長)**

若干、数値的なものは、先ほど、第4次長期総合計画総括の中間報告というものをお配りしているんですけども、レーダーチャートが載っていた、その5ページ目、6ページに、財政収支の見通し（前期・後期基本計画）と実績ということで、これまでの10年間の財政収支と、最初の見通しと実際はどうだったのかといったところも総括で入れさせていただいてございますので、最初のフレーム、シミュレーションと比較してどうだったのかといったことにつきましては、細かくはこちらに書いてございますので、また、御参考に見ていただけたらと思っております。

以上でございます。

**(長井委員)**

ありがとうございます。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。

経営資源のほうは別に考えればいいですけど、ここでは、いい政策の話ばかり考えていけばいいかもしれないんですけど、そうもいかず、必要に応じて、また、資料を出していただけるということで、よろしく願いいたします。

ほかには。

**(松浦副会長)**

ちょっと、人口の話が幾つか出たんで、資料6を見ていただきたいと思うんですけども、スライド番号5の図表4の年齢別社会増減の推移というのがありまして、これは結構、個人的に面白い図でありまして、ちょっと見づらいところが若干あるんですけども、2013年の場合は、15歳～19歳が結構上がって24、25歳～29歳が減っていく。これ、俗に言うUターンですよ。地方から来て、大学を卒業して地方に戻ってくるというパターンだったんですけども、そういった傾向が大分弱くなっていると。私は東北の逆のパターンをよく見たりしてまして、東北の場合は、20～24、25～29でも出ていってしまう、出ていってしまうと戻ってこない。逆に東京に集まっていくというのが、2015年ぐらいからですか、2000年、2010年代の半ばぐらいから出てきている。だから、逆に言うと、確かに立川も成果をお聞きしたんですけども、全体的に東京に、24から20、20代、人が集まってきてい

ると。地方に戻らないでとどまっていたり、地方からやってくるということが傾向としてあるということで、あともう一つ注目すべきところとしては、20代って、やっぱり、人口が動きやすいわけですね。ということは、逆にその世代にターゲットを当てるということで、年齢が重なると、人ってなかなか動いてくれないんですけども、若い世代というのは結構動いてくれるという意味で、これでも分かると思うんですけど、20～24が大きく増えていますし、20代が下がったりしていることもあるし、そうならない。結構人が動きやすいところというのは20代ではあるということで、その辺にターゲットを当てていくと、今後、人口を増やして活性化していくという意味では、若い世代をターゲットにするというのは非常に有効な戦略であるのは間違いないということです。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。

先ほど市民ワークショップも年齢別でやっているということもありまして、年齢別の見方ですね。

**(松浦副会長)**

あともう一つ、ちなみに男女で分けると、女性は結構動くので、そうすると、若い女性をターゲットにするというか、子育て世代というか、子育てしやすい環境をつくっていくということは、若い人が集まってきて、そこで出生率が上がっていくという意味で、その意味でも、すごく有効な政策なのかなという気はしています。

**(朝日会長)**

ありがとうございます。

ほかに。

私一つだけ、資料8に来街者意向調査結果概要のアンケートがあったんですけど、あと、交流のまちだったりして、来街者というのがどういう来街者なのかということはあるんですけども、昼間人口が多いということなので、雇用ですね、働きに来ている方なのか、それとも買物とか、そういう利便性で来ている方なのかという点でいうと、雇用、働きに来ている方の集積という点はどうかなのかなというのが質問なんですけど、どこかに何か資料はありますか。

**(渡貫企画政策課長)**

来街者意向調査の内訳として、通勤で来ている方ということですかね。

**(朝日会長)**

はい、そうですね。だから、これは区別していないんですね。

**(渡貫企画政策課長)**

資料8の(2)で仕事と通学というようなところでは取っているんですけど、結構、今回、10代、20代の方が多かったんで、そこもちょっと分析すれば、年代別でクロスをかけていって、ちょっとできるかもしれないんですけど、通勤というくくりだけでは数値は取っていないところです。

**(朝日会長)**

そうなんです、この調査では、では、分かりました。働きに来ている方の通勤、通学ですかね、国勢調査なんか。そういったデータの集め方というのをしているのですか。

**(渡貫企画政策課長)**

通勤ですか。

(事務局)

そうですね。仕事、通学という区分でアンケートを取っているのですが、来街者ですと、通学か仕事かというところの区別はちょっとできない。

(朝日会長)

できない形ですね。分かりました。はい、ありがとうございます。

すみません。

ほかに確認しておきたいことはございますか。

(萬田委員)

自治会の加入率のことがここに書いてあるんですけども、その辺、ちょっとお伺いしたいなと思っています。近年の自治会の加入率というのは、私ども、高齢化が影響しているのかなと思うわけでございます。そして、核家族化がありまして、今、立川市の平均家族数値、多分、2人を切っていると思うんです。1.7とか、家族の数といいますのが。人口は減少していますが、世帯数というのはちょっと分からないんですが、自治会の加入率というのは世帯数で割っているんですね。要は、大分前は住宅が増えると、そこが全部、自治会に入ってくればいいんですけど、なかなか入ってくれないところが多いですから、そうすると、加入率が下がってくる。特に砂川地区では住宅がどんどん増えたりすると、自治会がなかなかつくれないところ、新しく住宅ができますので、自治会がつかないというところがあって、加入率が下がるという部分と、今はどちらかという、高齢化によって自治会の活動に参加できない、そういう方もいて、自治会を辞める方もおります。ですので、いろいろ分析が必要かなと思って、何とか自治会の加入率を上げるにはどう、行政と自治会とが共存するというんですかね、考えていかなければいけないと思うわけでございます。何かいい方法があれば、皆さんの知恵もいただいて検討できれば、そう思います。

(朝日会長)

ありがとうございます。データもいただいたところで、地域の話、出てきますね。

(渡貫企画政策課長)

世帯数は、おっしゃっていただいたように、非常に、10年前と比べても1万世帯ぐらい増えておりますね。2014年で8万5,000世帯ぐらいで、2023年で9万5,000世帯ということで、非常に世帯数は多い。そのうち単身の世帯もかなり多いということがあって、先ほどおっしゃっていただいたのは、自治会になかなか入っていただけないということがあって、今後、地域の担い手といったところでは、市としても非常に課題認識を持ってございますので、そういったところにつきましても積極的に、ではどういうふうに関与を維持していこうかということも、次の10年間では重要かなとは思っております。

(萬田委員)

そういう中で、立川市は、自治会応援条例というのを制定していただきましたので、行政も自治会に応援いただいているようではございますけれども、さらにお願いをしたいと。

(朝日会長)

ありがとうございます。

そうしたら、お時間もあれなので、最後、芦澤委員にお願いを。

(芦澤委員)

中間報告のデータ、すごくよくまとめて大変だったと思うんですけども、どうしても

レーダーチャートの中で60%台を示して、どうしても文化系が低いというふうに見えるんですけれども、これは今年の3月での取りまとめで、来年度で第4次が終わるかと思うんですけれども、ここら辺のところの底上げという言い方もおかしいんですけれども、何か施策というか、されている、もしくはする予定ではあるのか、ちょっとお聞きしたかったんですよね。

**(渡貫企画政策課長)**

今回、かなり、文科系とかそういうことで6番になっているというのは、指標自体が、文化、イベントに参加するニーズというようなところを目標値と設定していたことがございます。何が影響したかという、御存じのとおり、コロナ禍ということで、催物自体をやらなくなったりとか、参加しづらくなったというような行事になったということもあわせて、数値がいま一つ、当初のものよりも低く推移しているということがございます。ここで少し、コロナも5類になったということもあわせて、地域の活動の文化活動であったりスポーツ活動なども徐々に回復しつつありますので、そこにつきましては、市も啓発を進めながら、事業の目標達成に向けて進めていきたいとは考えているところでございます。

以上でございます。

**(芦澤委員)**

ありがとうございました。

**(朝日会長)**

ありがとうございました。

お時間をたくさんいただきました。

**(5)その他**

**(朝日会長)**

それでは、最後の「(5)その他」に行きたいと思いますが、全体を通して、事務局から何かお伝えすべきことなどはございますか。

**(渡貫企画政策課長)**

特にございません。

**(朝日会長)**

大丈夫ですか。

分かりました。それでは、そろそろ閉会に向かいたいと思いますけれども、次の……。

**(事務局)**

事務連絡です。

本日はありがとうございました。

先ほども一度御案内いたしました、次回の開催は11月23日(木・祝)、勤労感謝の日に、たましんRISURUホールで開催の市民ワークショップ報告会、こちらでの意見聴取、こちらが第2回となります。報告会が14時30分から始まりますので、それまでには御参集いただければと思います。開催場所の詳細につきましては、本日配付しております市民ワークショップ報告会会場案内図を御覧いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

**(朝日会長)**

皆さん、初回から、いろいろ御説明もたくさんいただきまして、ありがとうございました。

た。御意見もいただきまして、ありがとうございました。これからスケジュールをいただいたように、第2回から議論を本格的にさせていただく形になりますので、どうぞよろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。

— 了 —